

▶▶▶ P.2からの続き

そぼうさい・まなぼうさい」をNPOの皆さんと一緒にを行い、100年後の子どものために役立つような地域のコミュニケーションセンターを目指しています。

水谷 社会貢献を常に意識しながらお店づくりをしているのに驚きました。社員だけでなく一般の方を対象に認知症の理解活動をしているというのは、今後ますます必要性があることで、社会貢献に役立つと思います。

### 社会貢献活動のきっかけは？

山田 もともとは環境保全や人材育成を目的に社会貢献活動をしていましたが、社会問題はその分野だけに特化していませんよね。社員が社会問題の当事者というのはよくあること。当事者意識を持った社員から問題解決に向けての活動が広がっていき、多くの社員から知恵や情報を得る。私たちは、社員にとっての嬉しさは会社にとっての嬉しさであり、地域にとっての嬉しさでもあると感じています。

城戸 メニコンという社名が「目にコンタクト」という言葉に由来しているように、多くの方々に見る楽しみを感じ、心豊かな生活を送っていただきたくて活動を始めました。ギャラリーやホールを開設したのは、若いアーティストが地元愛知で活躍できる場所が少ないのに気づき、場所の提供をしたかったからです。

百瀬 場所の提供という点では、ユニーも力を入れています。私たちは接客業なので社員の休みが不規則で、社員がどこかに赴いてボランティア活動をするというのが難しかったので、お店という場所で地域に役立つことをしようということになったのです。お客様にわざわざ買い物に来ていただけるお店であり、「あのお店が好きなんだよね」と言われるようなお店づくりを目指して、お客様に共感してもらえる要素を詰め込んだイベントをNPOと一緒に開催しています。

水谷 お店の中ならいろんな人に見てもらえますし、買い物のついでに立ち止まってもらえますね。

百瀬 イベントを始めた頃は誰も興味を持ってくれませんでした。去年くらいから座ってちゃんと話を聞いてくれる人が出てきました。「イベントの話がとても面白かったから自分も参加したい」とおっしゃるお客様が増えてきて本当に嬉しいです。

### NPOと関わるメリットは？

山田 実のところ、会社員というのは社内で活躍できるのはほんの一握りで、なかなか日の目を見ない社員も多いですが、評価の目が地域や社会だったと知るとモチベーションが上がり、社員が元気になるんです。それに働いている間に、退職後にも地域に根付いていける意識づくりに一役買っています。

水谷 自分の居場所や役割があるというのは力になりますよね。

城戸 当社では、デンソーさんやユニーさんのような活動がまだまだできておりませんが、今後、ホールでのイベント開催時にNPOの活動を紹介するお手伝いをさせていただくことはできるのかな、と考えています。

水谷 メニコンさんの場合、企業側が社会貢献と思っていない部分で、実は社会貢献されていると思います。NPOは少ない資金の中で何とかやりくりしているところも多いので、いかにお値打ちに素敵な場所で活動できるかというのが大事ですから。

百瀬 当社とデンソーさんとは10年前から、各家庭で使わない衣料品をユニーの店舗で集めて、難民救援活動のために送るという活動を共同で行っています。デンソーハートフルクラブから200人くらいのボランティアが参加しています。普段買い物に来ている店でそういうイベントを行っているというのが、お客様へのボランティアに対する敷居を低くしていると思います。また、店頭で障がい者の方が作ったワインやフェアトレード商品などの販売も行っていて、お客様の買い物が障がい者の方々や途上国の人への応援になる。エシカルなお買い物で人と人をつないでいます。

### 企業から見たNPOとは？

山田 ボランティアの人たちは純粋に思いやりの心を持って活動しているので尊敬しています。NPOの方たちは強い思いはあるけれど団体の運営に関するノウハウがない、逆に社員はノウハウはあるけれど情熱はない。企業とNPOはお互いにならぬものを補い合える関係だと思います。会社では計画に対する実績はどうだったかというミッションの中で生きているので、そういうノウハウがNPOの方々に伝えられるのではないのでしょうか。

城戸 今はデジタルでのコミュニケーションが優位になっていて、人と人のコミュニケーションが希薄になっていのではないかと思います。ボランティアの方々とは人と接することを重要視しているので、そのコミュニケーション能力にはいつも圧倒されます。

水谷 確かにボランティアの人たちは熱いですよね！でも、社員の方が社会貢献活動としてやりたいことをやっていくというのは、会社がこういうことをやってみようと言ったとは違って、社員一人一人が自ら動き始めるとすごい活動になっていく。

百瀬 ユニーでは地域のNPOと企業、市民をつなぐインタープリター(通訳)のような事業を立ち上げました。地域のボランティアの熱い想いを市民につなげ、地域に共感してもらえるように、私たちがボランティアと一緒にイベントなどの実行計画を作成し、それを企業と連携して実行に移す。お店という地域のコミュニティーセンターで、それぞれの思いをつなぎ、周りの人たちの共感が、地域の中で大きな輪になっていきます。

### 今後の取り組みは？

山田 東京で開催されるオリンピック・パラリンピックを盛り上げていきたいです。選手を応援していると、自分も頑張らなければという気分にさせられるので、応援者を増やしていきたいですね。

城戸 当社も23年間メニコンカップを実施しているので、プロとして活躍している選手の中には、かつてメニコンカップに出場したことがある選手も多いんです。選手たちの思い出に残ってくれるイベントなので継続していきたい。もちろん、ホールやギャラリーの運営も続けていきますよ。

百瀬 スーパーマーケットは地域に対しての取り組みという部分が多いですが、買い物を通していろんなことができると思っています。まずはお客様に買い物を楽しみながら社会貢献できること、たとえば、家庭で不要になった物をリサイクルすることやエシカルなお買い物で社会に役立つということを知ってもらいたいです。

山田 現代社会は人と人のつながりが希薄で社会問題が山積み。そんな中で企業としての社会貢献は外せない。できれば私たちの部署がなくなるくらい人が人を思いやれる社会になると良いですね。

水谷 社会貢献に対するハードルはそんなに高くない。企業とNPOとの連携で社会貢献活動を活性化させ、「名古屋はすごいね」と言われるような地域にしていきたいですね。



## Information



特定非営利活動法人ボラみみより情報局 第16回通常総会  
2018年11月23日[金・祝]

第5回 ボラみみアワード表彰式も同時開催  
時間・場所は未定です。決まり次第、ホームページなどでお知らせします。